

# 住民活動賞 受賞 546.2.20

昭和46年2月20日 (土曜日)

賞 新 聞

(第三種郵便物認可)

## 人間登場

「知恵遅れのことばは直感力が鋭いんです。けつたいな差別観を思わせるほどおとなしい人柄だ。持った見学者がきたら、みんな「誕生日ありがとう運動」と「オッサン帰れ」というんです。は、ひとくちいいうと、このものよ。逆に自分たちをよく理解して、誕生日に二口五百円以上の寄付をくれる人は表情やしぐさでわかる。してもらい、これを基金に恵まれ

新生活運動協会の第一回「あすの地域社会を築く住民活動賞」を受賞した「誕生日ありがとう運動」のリーダー

ふじもと たかし  
藤本 隆さん



日を記念して、誕生日ありがとう運動と名づけてスタート「誕生日のお祝いを少し節約して協力してください」と呼びかけた。「先生のくせに寄付集めをしてる」「売名行為だ」などと誤解や中傷もあった。「何度かくじけそうになったが、日本の船員から聞いたアメリカの若い女性が初めてもらった給料の十五分を送ってきたり、暖かい運動を知って生きがいを見つけた」という精薄児の母親のたよりに励まされたりし

の感情や思想で人を区別しない。非常に柔軟な感覚でみんなの意見を聞くのが成功の原因だ」とその努力を高く評価している。

引つ込み思想とも思える藤本さんが、この精薄児問題になると教育者の立場からきびしく批判する。「知恵遅れの幼児を発見する医師は早く集団生活をせよ」といふけれど、引き受けてくれる専門の幼稚園施設はほとんどない。それに小学校入学時になると、市から父兄へ「あなたのことばは頭が悪いから、就学免除願いをしなさい」といってくる。無理もいいてきた。教育者なら申しわけない」とあやまるべきだろう。教育には、明治時代の差別意識がまだ残っている」とききつける。

近年、精薄児養護についての考え方は立派な施設を設け、家族から隔離して集団教育するという方向が大勢を占めているが、藤本さんはいう。「自分のことばの精神成長の例をみて、日夜親がつきそい、心のつながりを持って教育するから、このもの特性を伸ばせるのだ。知恵遅れのことばも同。自宅から通園できる施設を充実させるのが理想だ」と強調する。「不幸なことばは、これからも永久になくならないでしょう。しかし、このことばたちが、いつかみんなあわせた日があつてほしい。違いなご……。私たちはそう信じて運動をしています」

(山口東男記者)

んでしよう。ボール遊びしよないでもたちの啓発事業をしよかと近寄って行く。こんなこと不幸なことばのために活動して、またちを知能指数が低いから、学する人たちを表彰する、愛の輪が運動の成績が悪いから——と区別することば許されません。このことをすくしても社会の人たちに広くわかつてもらおうと始めたのが、この運動です」

神戸市立青陽養護学校教諭の藤本さんは地味な制服姿でボツリボツリと話す。細い目、きゃしゃなからだつき。日本全国からアメリカカナダ、フィリピンまで広がる市民運動を六年間も続ける行

### 誤解、中傷のり越え広げた輪

兵庫県神崎郡出身、昭和二十八年、立命館大経済学部卒、神戸市湊川小、魚崎小に勤務のあと、三十七年、室内小で特殊学級を担任、四十一年以来、青陽養護学校小野柄分校で精薄児教育に当たった。同運動を推進。さる四十二年、兵庫県教委から「ゆずりは賞」を受けた。四十一歳。誕生日ありがとう運動事務局は神戸市真谷区小野柄通一青陽養護学校内。